

高等学校における自由英作文導入期の指導方法に関する研究 — 「読んで理解しやすい文章の要件」の意識化を通して —

広島市立美鈴が丘高等学校教諭 小茂田 由美

I 研究主題設定の理由

『高等学校学習指導要領』(文部科学省2003)には、高等学校外国語(英語)科の「ライティング」の言語活動の一つとして

「自分が伝えようとする内容を整理して、場面や目的に応じて、読み手に理解されるように書く。」

と示されており、生徒にその力を身に付けさせることが重要な目標となっている。

しかしながら、『平成14年度高等学校教育課程実施状況調査報告書の概要』(国立教育政策研究所2004)では、「内容を考えて英語で書く」ことにねらいをおいた「トピック指定問題」において設定通過率(45%)を下回る結果(20.2%)となっており、複数の文を書くことはできるが内容的にまとまりのある文章を書く力は十分ではないと報告されている。

これまでに私自身が実践してきた英作文指導の際にも、とりわけ、一つの文を英語で表現する和文英訳の段階から自身の思考に沿ってまとまった英語の文章(自由英作文)を書き始める段階に移行した時期は、「書く内容はあるが、それがうまく英語にならない」、「文の羅列になってしまい、まとまりのある文章を書くことができない」という生徒が多く、自由英作文の導入期における指導方法を工夫する必要があると考える。

そこで本研究では、自由英作文の導入期に焦点を絞り、自分の意見や考えなどを整理する過程を重視し、読み手の立場に立って内容や表現を工夫しながら、まとまりのある文章を書く力の向上を図る指導方法を探ることとする。

II 研究の方法

自由英作文の導入期において「読んで理解しやすい文章の要件」の意識化を通して、内容的にまとまりのある文章を書く力を向上させる指導方法を工夫し、実践授業を通してその有効性を探る。

III 研究の内容

1 研究主題に関する基礎的研究

(1) 自由英作文指導における配慮事項

『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』(文部省1999)では、Iで示した言語活動を効果的に行うためには、必要に応じて、

「文章の構成や展開に留意しながら書くこと。」

に配慮するよう述べられている。ここで言う「文章の構成や展開」とは、文と文とのつながり、パラグラフの組み立て方、パラグラフ間の関連、論旨の展開のさせ方などを指し、例えば、論説文のパラグラフの構成の仕方としては、冒頭で主要な主張をし、その後具体的な事例を挙げて説明することが多い、というように、書く場面や目的に応じたふさわしい文章の構成や展開で、書くことが求められている。

指導に当たっては、生徒がこのような文章の構成や展開に注意しながら書くように指導することが大切であるが、このような技能は知識として教えるよりは、むしろ、自分の伝えたいことを相手に効果的に伝えようとしながら何度も推敲して書くうちに次第に身に付いていくものであるため、知識伝達型ではない指導方法を検討する必要がある。

(2) 自由英作文の導入期における指導

一般に英作文の指導は、学習段階に応じて以下の5段階の過程を踏襲すると考えられる。

- ① 与えられた日本語の単文を英語で表現させる
和文英訳の段階
- ② 与えられた日本語の文章を英語で表現させる
和文英訳の段階
- ③ 与えられたテーマに沿って英語で数文のまとまりのある文章を書く段階
- ④ 与えられたテーマに沿って段落構成を意識して英語で文章を書く段階
- ⑤ 自らテーマを設定し段落構成を意識して英語で長文を書く段階

本研究では、自由英作文の導入期を、和文英訳の段階から数文のまとまりのある文章を書く段階に移行する③の段階と捉える。まとまりのある文章とは、自分の意見や考えが読み手に効果的に伝わるように、文の羅列ではなく、文と文につながりがあり内容的に一貫しているもの、つまり「文章の構成や展開」で述べた「文と文とのつながり」や「パラグラフの組み立て方」に留意して書かれた文章である。しかし、まとまりのある文章という概念は生徒にとって具体的にイメージしにくい。そこで本研究ではまとまりのある文章を、文章の構成や展開において、つながりの語句の使用などの工夫をした文章と捉え、生徒が読み手の立場で理解しやすい文章だと実感するとともに、なぜ理解しやすいのかということを考えながら文章を作成する指導について考えることとする。

(3) 「読んで理解しやすい文章の要件」

文章を書くことは人に読まれることが前提であり、人が読んで理解しやすいものでなくてはならない。「人が読んで理解しやすい文章の要件」として、青木ほか(1983)や国立教育政策研究所(2004)ほかの挙げている要件は以下の8点にまとめることができる。

- 要件 1) 主張を明確、簡潔に表す
- 要件 2) 抽象的内容を具体例で表す
- 要件 3) 場面や目的に応じて質問を加える
- 要件 4) 単なる文の羅列に終始せず、順序よく書く
- 要件 5) つなぎの語句を適宜用いる
- 要件 6) 内容理解に支障をきたすような、語順や時制等の誤りをなくす
- 要件 7) 適切なパラグラフの長さで論理展開をする
- 要件 8) 英語の論理展開に従う

上記の要件は、単なる知識の伝達によって習得できるものではなく生徒自らが実際に文章を読んで理解しやすいと実感し、なぜ理解しやすいのかについて考える、といった問題解決型の授業の中でより意識化されるものである。

(4) 「読んで理解しやすい文章の要件」の意識化を図るための手だて

自由英作文の導入期において、以下アからウのように生徒自らが要件を探求するための三つの手だてを考える。

ア 二つの英作文例の提示

要件を含んでいない英作文例Aと要件を含んでいる英作文例Bとを提示し、二者を比較することで生徒が自ら要件に気付くことができるようにする。その際、二つの英作文例については、導入期(段落構成を意識する前の時期)の指導であることからパラグラフは単一とし、論旨はほぼ同様なものとするよう配慮する。

まず、要件を含まない英作文例Aの作成に当たっては、以下の点に留意した。

- ① 具体的な例や数値を用いない。
- ② 文を羅列し、つながりの語句は用いない。
- ③ 質問文は入れない。
- ④ 綴り間違いや文法間違いを入れる。
- ⑤ 書き手の主張を明示する文は入れない。

英作文例A

Diamonds is very expensive for several reasons. They are difficult to find. They are only found in a few places in the world. They are useful. People are using diamonds to cut other stones. They do not change. They stay the same for millions of years. And they are very beautiful.

一方、要件を含む英作文例Bの作成に当たっては英作文例Aとの対比を明確にするために、以下の工夫を行った。

- ① “several” のような抽象的表現を避けて，“four” という具体的数値を用いる。 【要件2】
- ② “first”, “second”, “third”, “finally” のように文章のつながりが把握しやすいように、つなぎの語句を用いる。 【要件4】 【要件5】 【要件8】
- ③ “Do you know～?” や “How about you?” のように読み手の興味・関心を喚起する質問文を入れる。 【要件3】
- ④ 綴り間違いや文法的間違いを排除する。 【要件6】
- ⑤ “Though ～, I want to buy one.” のように書き手の主張が明示される文を入れる。 【要件1】

英作文例B

Diamonds are very expensive. Do you know why they are so expensive? There are four reasons. First, they are difficult to find. They are only found in a few places in the world. Second, they are useful. People use diamonds to cut other stones. Third, diamonds do not change. They stay the same for millions of years. And finally, they are very beautiful. Though they are very expensive, I want to buy one. How about you?

なお、要件7)については、複数のパラグラフで文章を構成・展開するという学習段階で取り入れていきたいと考えた。同様に要件8)についても学習段階が進み、英語の論理展開に従ったパラグラフの構成法等の指導を行う際に取り入れていきたいと考えた。

イ ウェビング法の活用

与えられたテーマに基づき、自由な発想を展開するウェビング法を活用して、書こうとする内容や構成・展開の整理ができるようにする。ウェビング法の活用を通して生徒は「主張を明確、簡潔に表す」、「抽象的内容を具体例で表す」ほかの「読んで理解しやすい文章の要件」を意識することができると考える。

本研究では、実践授業の第1時においてウェビング法の例を提示してみせることで生徒の活動を促進したいと考える。

ウェビング法で書き出した語句から文の作成につながる過程を示すために、ウェビングをもとに作成した作文例を提示する。生徒は自ら選択したテーマに基づいて、連想する単語や語句を挙げながら、自由に発想を広げていく。この段階から文と文とのつながりやパラグラフの組み立て方を考え、まとまりのある文章になるように留意することが必要であると考える。

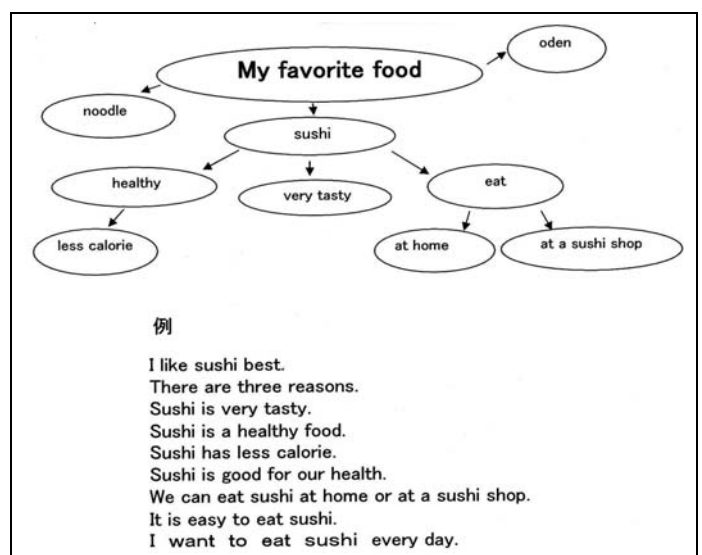


図1 ウェビングと作文例

ウ 生徒同士の相互評価

読んで理解しやすい文章については書き手と読み手でその評価が異なることから、書き手が「読んで理解しやすい文章の要件」を組み込んで作成した英文について他者（読み手）が評価し、どのような工夫が文章を読みやすくしているか、さらに読みやすい文章にするにはどのような工夫があればよいかについて交流する相互評価の場を設定することが効果的であると考えます。お互いの文章を相互評価し、その後修正する。再度相互評価を行い、文章を再度修正する。自分の文章を他の生徒に読んでもらうこと

が読み手の存在を意識することにつながり、他の生徒の文章を読むことで「読んで理解しやすい文章の要件」をより意識するようになると思います。

2 実践授業の計画と実施

以上の三つの手だてによって、文章の構成や展開に留意しながら書く力を向上させることができるということを実証するために、広島市立A高等学校第2学年の少人数編成クラス26名を対象に、単元名は自由英作文、単元計画3時間の学習指導計画（表1）を作成し、平成18年9月27日～10月3日に実践授業を実施した。

表1 学習指導計画

	指導目標	生徒の学習活動
第1時	「読んで理解しやすい文章の要件」に気付かせる。	<ul style="list-style-type: none"> 二つの英作文例を参考に、「読んで理解しやすい文章の要件」に気付く。 ウェビング法を活用し、作文のテーマに沿って内容や構成・展開を考える。
第2時	「読んで理解しやすい文章の要件」を踏まえて作成した文章を、相互評価させる。	<ul style="list-style-type: none"> 第1時に自ら気付いた「読んで理解しやすい文章の要件」とウェビング法を用いて考えた構成や展開に留意しながら文章を作成する。 3人1組でお互いの作文を読み合い、相互評価をする。 相互評価をもとにして、文章を修正する視点を具体化する。
第3時	「読んで理解しやすい文章の要件」に基づいて修正した文章を、相互評価させる。	<ul style="list-style-type: none"> 第1時、第2時に自ら気付いた「読んで理解しやすい文章の要件」に基づき、文章を修正する。 3人1組でお互いの作文を読み合い、再度相互評価をする。 相互評価をもとにして、文章を再度修正する。

3 実践授業の分析と考察

授業中に生徒が書いた英作文、ワークシートに記入した「さらに工夫しようと思うこと」、「授業の感想」、さらには授業後に実施した質問紙調査の結果をもとにして、文章の構成や展開に留意しながら書く力を向上させる三つの手だての有効性についてを((1)～(3))、全生徒および抽出生徒Aの変容を((4)～(5))で分析する。

(1) 二つの英作文例の提示の有効性について

図2は、二つの英作文例提示の有効性について、質問紙調査の結果をまとめたものである。

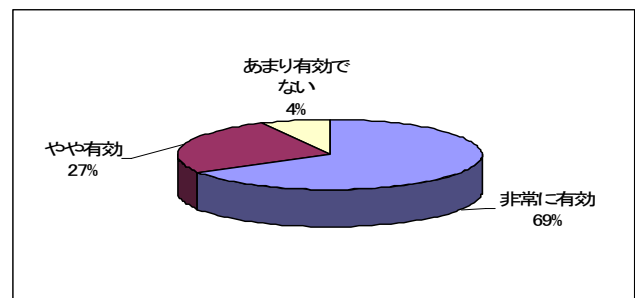


図2 二つの英作文例提示の有効性 (N=25)

図2から、「読んで理解しやすい文章の要件」の意識化において、二つの英作文例の提示は「非常に有効」「やや有効」であるという回答率を合わせると96%となる。また「英作文例提示は非常に有効だった」と回答した具体的な理由や「授業の感想」として下

記のような記述が見られたことから、二者を比較することで、読んで理解しやすい文章の要件に気付きやすくなったと考えられる。

- ・ 説明を聞くだけより、例文があった方が実際に比較ができるし、分かりやすい。
- ・ 良い例だけでなく悪い例もあげた方がいざ書くとき、どういうふうにすればいいか分かる。
- ・ 英作文の書き方にも、読み手への心配りが必要なんだと思った。
- ・ 書き方一つで、同じ内容でも分かりやすさが大分違うのが分かった。

さらに、第2時に生徒が書いた文章を分析して、生徒が用いた要件をまとめてグラフ化した(図3)。図3によると、「つなぎの語句を適宜用いる」という要件5)を用いた生徒が最も多く、生徒に意識化が強く図られたと考えられる。また要件5)は生徒にとって最も使いやすい要件であると推察される。

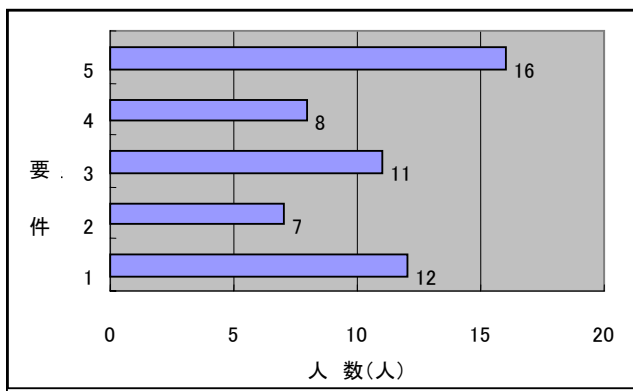


図3 各要件を用いた生徒の数 (N=19)

要件6)については、語順や時制等の誤りをしないように気をつけて生徒が文を書いたと思われるが、要件を意識したか否かは作文からは読み取れなかった。

(2) ウェビング法の活用の有効性について

図4は、ウェビング法に関する質問紙調査の結果をまとめたものである。

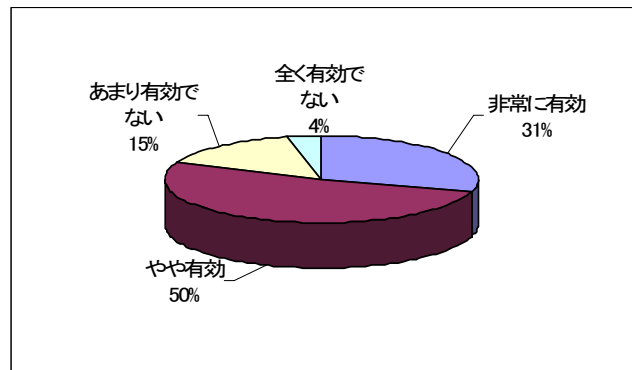


図4 ウェビング法の有効性 (N=25)

この結果から、「読んで理解しやすい文章の要件」の意識化において、ウェビング法の活用は「非常に有効」「やや有効」という回答率を合わせると81%となる。

「ウェビング法は非常に有効だった」と回答した具体的な理由や授業の感想に次のような記述が見られたことから、文章を作成する時に、作文の内容や構成・展開を整理する方法が徐々に分かってきたことが読み取れる。

- ・ 書きたいことを先に決められたし、文章にまとめやすかった。
- ・ 作文を書く際の文の順を大まかに書くことによって、文章を作る時のイメージがふくらむからウェビング法は有効だと思う。
- ・ 前に作文を書いた時は、どうしていいか分からなかったけど、今日の授業でまずどうするかが、分かってよかった。

実際にウェビング法を活用して、文章の内容や構成・展開を整理した生徒のウェビング例を挙げる(図5)。

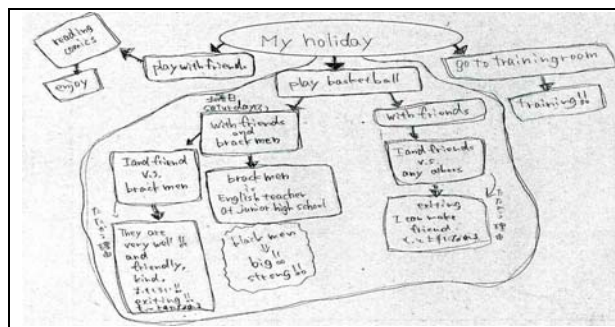


図5 生徒のウェビング例

一方、「あまり有効ではなかった」(4人)「全く有効ではなかった」(1人)と回答した具体的な理由は、「自分の場合、思い浮かばなかったのであまり書いていなかった。じっくり書く場合は、考えをまとめるのに役立つかも」「意外と英文ができませんでした」「わざわざ書かなくても考えられる」等であった。

これらの事から事前にウェビング法を用いて文章の内容や構成・展開を整理することは有効であると考えるが、この方法では難しく感じる生徒もあり、導入方法についてはより検討していく必要がある。

(3) 生徒同士の相互評価の有効性について

生徒自らが気付いた「読んで理解しやすい文章の要件」を踏まえて書いた文章を他の生徒と読み合わせ、お互いの文章の相互評価をさせたところ、読んで直後に「すごい!」という言葉が聞こえてきた。また、ワークシートの「授業の感想」欄に「生徒同士の相互評価」について次のような記述が見られ、これらのことから、他者の文章を読むことで、自らの文章の修正点を見出し(棒線部分)、英語で表現しようとする意欲が向上した(波線部分)と思われる。

- ・ 他の人のを読むととてもすっきりしていて分かりやすかったので自分も書けるように頑張りたい。
- ・ 他の人の作品を読んで、流れができていてすごいと思ったので、そこをもっともって工夫してみたい。
- ・ 友達のを見て、やっぱ自分の書き方と違って、人それぞれの書き方というものがあつたので人のを参考にしながらも自分のものを書く。
- ・ 最大限努力したつもりだけど相手にうまく伝えられなかった。回し読みして自分では分かってても他の人には分からないことがあるんだと気付いた。

お互いの文章を読み終えた後、自らの文章の修正点を具体化させるために「さらに工夫しようと思うこと」を記入させた。表2は生徒の記述をまとめ「読んで理解しやすい文章の要件」と照らし合わせたものである。

表2 相互評価を通して生徒が工夫しようと思ったこと

生徒がさらに工夫しようと思った内容	対応する「読んで理解しやすい文章の要件」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたいことをはっきりさせる ・ 自分の気持ちを入れる 	要件1) 主張を明確、簡潔に表す
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「例えば」というように付け加える ・ 理由を付ける 	要件2) 抽象的内容を具体例で表す
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手に同意が求められるような文にする ・ 文章の中で読み手は回答していないが、読み手の回答を想像して書く 	要件3) 場面や目的に応じて質問を加える
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の流れを工夫する ・ 最後にまとめを書く ・ 箇条書きにしない ・ 文と文のつながりに注意する 	要件4) 単なる文の羅列に終始せず、順序よく書く
<ul style="list-style-type: none"> ・ つなぎの語句を使う 	要件5) つなぎの語句を適宜用いる
<ul style="list-style-type: none"> ・ 誤りをなくす(綴り・文法・時制) 	要件6) 内容理解に支障をきたすような、語順や時制等の誤りをなくす
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文を増やして、文章を長くする 	要件7) 適切なパラグラフの長さで論理展開をする

表2から、「読んで理解しやすい文章の要件」のうち七つの要件について工夫しようとしたことが読み取れる。要件8)「英語の論理展開の順序に従う」に該当する記述を生徒の記述から見出すことが出来なかったが、これは生徒にとって第1時に提示した二つの英作文例だけでは着目しにくい要件であったからではないかと考える。

また生徒自らが工夫しようとした点として以下のような記述もあり、「生徒同士の相互評価」を通して生徒が読み手の立場に立って書こうとしている姿が読み取れる。

- ・ (読み手が読みやすいように) 知っている単語を使う。
- ・ 習った構文を使う。
- ・ 1文が短くならないようにする。
- ・ 同じ単語の反復を避ける。

(4) 抽出生徒Aの文章作成の変容について

ここでは英文作成において顕著な変化が見られた生徒Aに着目して、文章の構成や展開に留意しながら書く力を向上させる指導方法と文章作成の変容について分析・考察を行うこととする。

生徒Aは授業後の質問紙調査において二つの英作文例の提示は「非常に有効であった」と回答しており、その具体的な理由として「比べることにより、違いが分かりやすかった」と記述していた。また、文章の内容や構成・展開を整理するウェビング法の活用については、「やや有効であった」と回答し、その具体的な理由として「いろいろな考えが浮かびやすかった」と記述していることから、生徒Aにとってこの二つの指導方法が有効であったと考える。

生徒Aのウェビング(図6)と第1時、第2時に作成した文章は、以下の通りである。

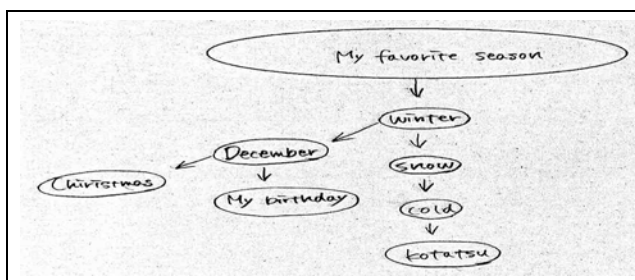


図6 生徒Aのウェビング

第1時

My favorite season

My favorite season is winter.

There are two reasons.

First, my birthday is December.



第2時

My favorite season

My favorite season is winter.

There are three reasons.

First, my birthday is December.

And my dog is too.

I go out with my family.

Then we eat out.

Second, I like winter than summer.

Because I don't like hot.

And winter is many event.

For example, Christmas, New Year's Day, winter vacation.

第2時に生徒Aが用いた要件

要件1) 主張を明確、簡潔に表す

要件2) 抽象的内容を具体例で表す

要件4) 単なる文の羅列に終始せず、順序よく書く

要件5) つなぎの語句を適宜用いる

第2時の文章では、「読んで理解しやすい文章の要件」のうち、要件1)、要件2)、要件4)、要件5)を用いて文章を作成していることが分かる(斜字体の部分)。内容理解に支障をきたすような文法上の誤りは見受けられるが、綴りの誤りなどが皆無であることから、読み手を意識して読んで理解しやすい文章を書こうとする姿がうかがえる。また生徒Aは、生徒同士の相互評価後、さらに工夫しようと思うこととして、「きちんと文章が成り立つように考える。」と記述していることから、自身の

作文が不十分であることや、次に自分がどのような書き方をしているかという見直しを持っていることがうかがえる。

第3時

My favorite season

My favorite season is winter.
 There are three reasons.
 First, my birthday is December.
 And my dog is too.
 I go out with my family.
 Then we eat out.
 Second, I like winter than summer.
 Because I don't like hot.
 Third, winter is many event.
*For example, there are Christmas,
 New Year's Day, winter vacation.
 I bake a Christmas cake with my
 mother.
 I enjoy making "Nengajo" the end of
 the year.
 But I must do my homework in
 winter vacation.*

第3時に生徒Aが用いた要件

- 要件 1) 主張を明確、簡潔に表す
- 要件 2) 抽象的内容を具体例で表す
- 要件 4) 単なる文の羅列に終始せず、順序よく書く
- 要件 5) つなぎの語句を適宜用いる

第3時の文章では、どのような工夫が文章を読みやすくしているか、さらに読みやすい文章にするにはどのような工夫があればよいかについて交流する場を設定した相互評価(図7)を通して、さらに修正を加えて、自分が好きな季節が冬である理由をより具体的に述べていることが分かる(斜字体の部分)。このように生徒Aは、3時間の実践授業で文章の構成や展開に留意しながら書く力が徐々に向上した。

このことから、自由英作文の導入期において「読

んで理解しやすい文章の要件」の意識化を図る指導方法が、文章の構成や展開に留意しながら書く力を向上させるうえで有効であると考えられる。

さらに、生徒Aの授業の感想をまとめると次のようになる。

- ① 普段、英作文を書くことがなかったので、いざ書こうと思ったら全く何も書けないことに気がきました。(第1時)
- ② なんとか、頼りない英作文だけど、少ない語彙力で文章が作れたことが楽しかったです。(第2時)
- ③ 昨日よりも、更に多く英文を書く事が出来ました。一度に書こうとすると、全く手につかないけど段階ごとにやると、どんどん手が進んだ。(第3時)
- ④ 私は特に英語が嫌いなので、文法とかすごく適当にやっていたし、ライティングの授業がすごく嫌でした。だけど改めてもっと文法や単語を勉強しなければいけないと思いました。(全体の感想)

生徒Aの第2時の感想から、自身の語彙の少なさを感じながらも、文章作成の楽しさを実感している様子が見えてくる。すなわち、自ら気付いた要件に基づいて文章を作成する楽しさを実感したものと考える。さらに第3時の感想から、文章を作成する段階を適切に踏むことの大切さを実感していることが読み取れる。このことから自由英作文の導入期において、段階的に自らの気づきを促していく指導方法が、文章の構成や展開に留意しながら書く力を向上させるうえで有効であると考えられる。



図7 相互評価の活動

オ 生徒全体の変容について

これまでは、抽出生徒に着目して、「読んで理解しやすい文章の要件」の意識化を図る指導方法の有効性について分析と考察を進めてきたが、ここでは生徒全体の変容について分析してみる。

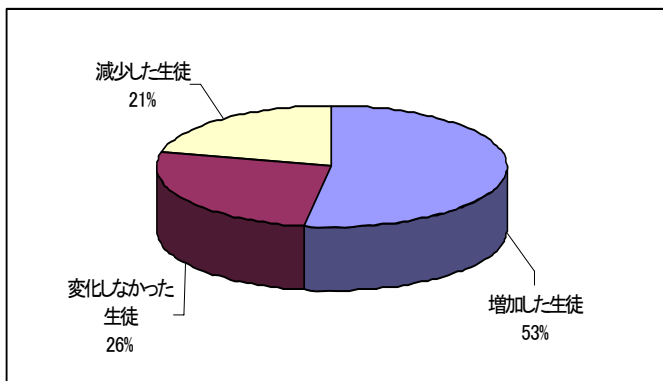


図8 「読んで理解しやすい文章の要件」の増減結果別に見た生徒の割合 (N=19)

図8から生徒の53% (10人)は、用いた要件の数が増加している。

一方で減少した生徒21%(4人)、変化しなかった生徒が26%(5人)となっていたが、第3時に書いた文章から推察すると、「読んで理解しやすい文章の要件」を用いた文章を推敲する過程で作文する時間が不足したものと考えられる。

最後に授業全体を通しての生徒の感想を基に分析・考察することにする。生徒の感想の中には次のような記述が見られた。

- はじめはどう書いていいか分からなかったしはじめから「書けない」と思っていたので下手でも間違っても書いてみて少し自分でも書けるのかなという気持ちになりました。
- 何を考えながら英作文をすればいいとか、どうやって書けば相手に伝わりやすい文になるかが少し分かった。やっぱり英作文には、文法力も必要だけど、単語力も必要不可欠なんだと改めて思った。これからも英作文を勉強したいと思った。
- もう少し時間が欲しかったです。もっといい文章が書けたらいいなあと思いました。

- 読み手にどのように書けば伝わるか、ということが学べた気がします。もっともっと上手に書けるようになりたいです。

これらの記述から、「読んで理解しやすい文章の要件」の意識化を図る手だてによって、生徒が英文で表現しようとする関心や意欲を向上させることに一定の成果があったと考えられる。

IV 成果と課題

自由英作文の導入期において「読んで理解しやすい文章の要件」の意識化を図る指導を行ったところ、次のような成果と課題を得た。

1 成果

- 「読んで理解しやすい文章の要件」の意識化を図るうえで以下の三つの手だてが有効であることが分かった。
 - 二つの英作文例の提示をすることにより、生徒に「読んで理解しやすい文章の要件」に気付かせること。
 - ウェビング法の活用により、文章の内容や構成・展開を整理する過程を具体化させ、「読んで理解しやすい文章の要件」を意識させること。
 - グループでお互いの文章を「相互評価」することにより、読み手の存在を意識させ、「読んで理解しやすい文章の要件」をより具体的に意識させること。
- 「読んで理解しやすい文章の要件」の意識化を図る手だてを用いると、以下の二つの点が向上することが分かった。
 - 自分の伝えたいことを読み手に効果的に伝えるために、「文章の構成や展開」に留意して書く力。
 - 英文で表現しようとする関心・意欲。

2 課題

- 本研究では、「段落」を意識した要件である「適切なパラグラフの長さで論理展開をする」ことや

「英語の論理展開の順序に従う」ことについての議論はほとんど行わなかった。自由英作文の導入期以降は、これらの要件についての意識化も必要不可欠であり、どのように導入していくべきであるか、文献や実践をもとに研究を深める必要がある。

- 本研究では、一定の成果は得られたものの、3時間という短い授業時間内に、小さな母集団において実施された授業による検証である。したがって、研究成果の信頼性をより高めるために、今後、より大きな母集団を対象に中・長期的な時間枠で追検証を行う必要がある。
- 同様の理由から「二つの英作文例の提示」「ウェビング法」「相互評価」それぞれの導入方法や運用方法についてさらに精査していく必要がある。

参考文献

- ① 青木昭六，池浦貞彦，金田正也『英語指導法ハンドブック 3』 大修館書店 1983
- ② 垣田直巳（編）『英語科重要用語 300 の基礎知識』 明治図書 1981
- ③ キム・ジョンキュー『英語を制する「ライティング」』 講談社現代新書 2006
- ④ 国立教育政策研究所『平成14年度高等学校教育課程実施状況調査報告書の概要 英語 I』 2004
- ⑤ 高橋潔『英作文の指導』 大修館書店 1979
- ⑥ 文部科学省『高等学校学習指導要領』 独立行政法人 国立印刷局 2003
- ⑦ 文部省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』 開隆堂出版 1999
- ⑧ 柳瀬陽介「Writing力は自己対話力」『GTEC 通信 2月号』 ベネッセ 2006
- ⑨ 渡邊寛治ほか『Vivid Writing』 第一学習社 2004